

## 新年のご挨拶



明けましておめでとうございます。昨年は大変お世話になりました。2011年1月25日より君津・木更津地域の訪問を始めさせていただくことになりました。今年も一步一步「顔の見える連携」を進めていきたいと考えています。別記の通り、2月末には薬剤師様方の顔をつなぐことができる会が開かれます。日頃懇意にされている薬剤師様がおりましたら、是非お声掛け下さい。本年も何卒宜しくお願い致します。

がん地域連携室 室長 三河 貴裕

## 講演会スケジュール

当院におけるがん関係の講演会スケジュールです。院内、院外問わず是非ご参加下さい。

### ①がん関係講演会

「日時」 平成23年2月10日(木) 18時～19時30分  
 「場所」 亀田総合病院内 Kタワー13F ホライゾンホール  
 「テーマ」 がんのリハビリテーション  
 「演者」 静岡県立静岡がんセンター リハビリテーション科部長 田沼 明先生

### ②第3回房総がんケアフォーラム

「日時」 平成23年2月12日(土) 13時30分～16時00分  
 「場所」 亀田総合病院内 Kタワー13F ホライゾンホール  
 「テーマ」 よく生き よく笑い よき死と出会う  
 「演者」 上智大学名誉教授 アルフォンス・デーケン先生

### ③鴨川臨床薬学セミナー

「日時」 平成23年2月25日(金)18時30分～20時00分  
 「場所」 亀田医療技術専門学校 1号館1階講義室  
 「テーマ」 地域のために、薬剤師が何をしていくか  
 「演者」 亀田総合病院 がん地域連携室長 三河貴裕(腫瘍内科医師)

## がん地域連携室スタッフよりご挨拶



薬剤部 安室 修

こんにちは。普段はC棟で抗がん剤の調製や患者さまへの指導を中心に行っています。地域連携の仕事をはじめと感じたことは、地域の保険薬局との連携の必要性についてです。紹介先の医師へは紹介状などで患者情報が伝達されますが、その医師の発行する処方箋を受け取る保険薬局には、患者さまの情報はほとんど伝わりません。

よりよい患者ケアを行うためにも連携先との情報共有はとても重要です。これからは病院外の薬剤師とのコミュニケーションも深めて行きたいと思っておりますので宜しくお願いします。

## 地域の先生方より

今回は、安房医師会長(赤門整形外科内科院長)の宮川先生に原稿をお願い致しましたところ、快くお引き受け頂き、シリーズで掲載させて頂く事となりました。がん連携パスだよりは地域の皆さまとご一緒に作り上げていきたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。

## Vol.1【安房地域における医療連携】



安房医師会 宮川 準会長

千葉県は11の医療圏に分割されています。安房地域医療圏は館山市・鴨川市・南房総市・鋸南町の3市・1町の地域で構成され、安房医師会もこの医療圏内の医師により組織されています。人口約15万人の小さなエリアで他の地域に比べて診療の完結率(地域内で初診から終診まで完結する率をいう)が極めて高いという特徴があります。その大きな理由は亀田総合病院を頂点にひとつの医療連携のピラミッドが形成されていることがあげられます。例えば、救急医療は一次・二次・三次の医療連携が確立されています。一次は病床を持たない医療機関(開業医)、二次は病床を有する医療機関(安房地域医療センター・館山病院etc)、三次は救命救急センターをもつ亀田総合病院です。救急患者はその重症度により、一次から二次、三次へと循環し、効率のよい医療が実践されてきました。しかし、近年脳卒中患者では三次の医療機関に集中し、新たな患者の受け入れが不可能な状態に陥ることがしばしば見られることから、患者様を三次から二次、一次の医療機関への逆の循環が行われるようになってきました。これは真の意味での循環型医療連携といえます。このようなことが可能な理由が前述の「単一の医療ピラミッド」が安房地域で形成されているためと考えられます。安房地域内にある医療機関をひとつの病院にとらえ、その中で患者様を効率よく循環させて治療していくことが、医療資源の有効な活用法と考えています。医療連携に必要な各医療機関の「顔の見える関係」を構築するための会合の設定は安房保健所の協力により、これまでも順調におこなわれてきました。安房医師会といたしましては、会員の理解・協力を得まして、今後も疾病毎に医療連携を構築するために活動していきたいと考えております。

亀田総合病院がん拠点病院推進センター  
 発行責任者: 亀田 信介  
 編集責任者: 唐鎌 房子  
 TEL: 04-7099-1230[内職3248]